



NIPPON SANSO HOLDINGS

個人投資家さま向け

日本酸素ホールディングス株式会社（証券コード：4091） 企業説明会

2023年9月3日

代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦

The Gas Professionals

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フロー、ROCE after Taxのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。



Contents

1. 企業紹介
2. 中期経営計画
NS Vision 2026 | Enabling the Future
3. 事業ピックアップ°
4. 株主還元



1. 企業紹介



本社全景（東京都品川区）

会社概要

NIPPON SANSO Holdings Corporation

日本酸素ホールディングス株式会社

商号

証券コード

東京証券取引所 プライム市場 **4091**

創業年月日

明治**43**年(**1910**年) 10月30日

本社所在地

東京都品川区小山1-3-26

連結売上収益

1兆1,866億円

(2023年3月期 IFRS)

連結営業利益

1,195億円

(2023年3月期 IFRS)

連結従業員数

19,579名

(2023年3月31日現在)

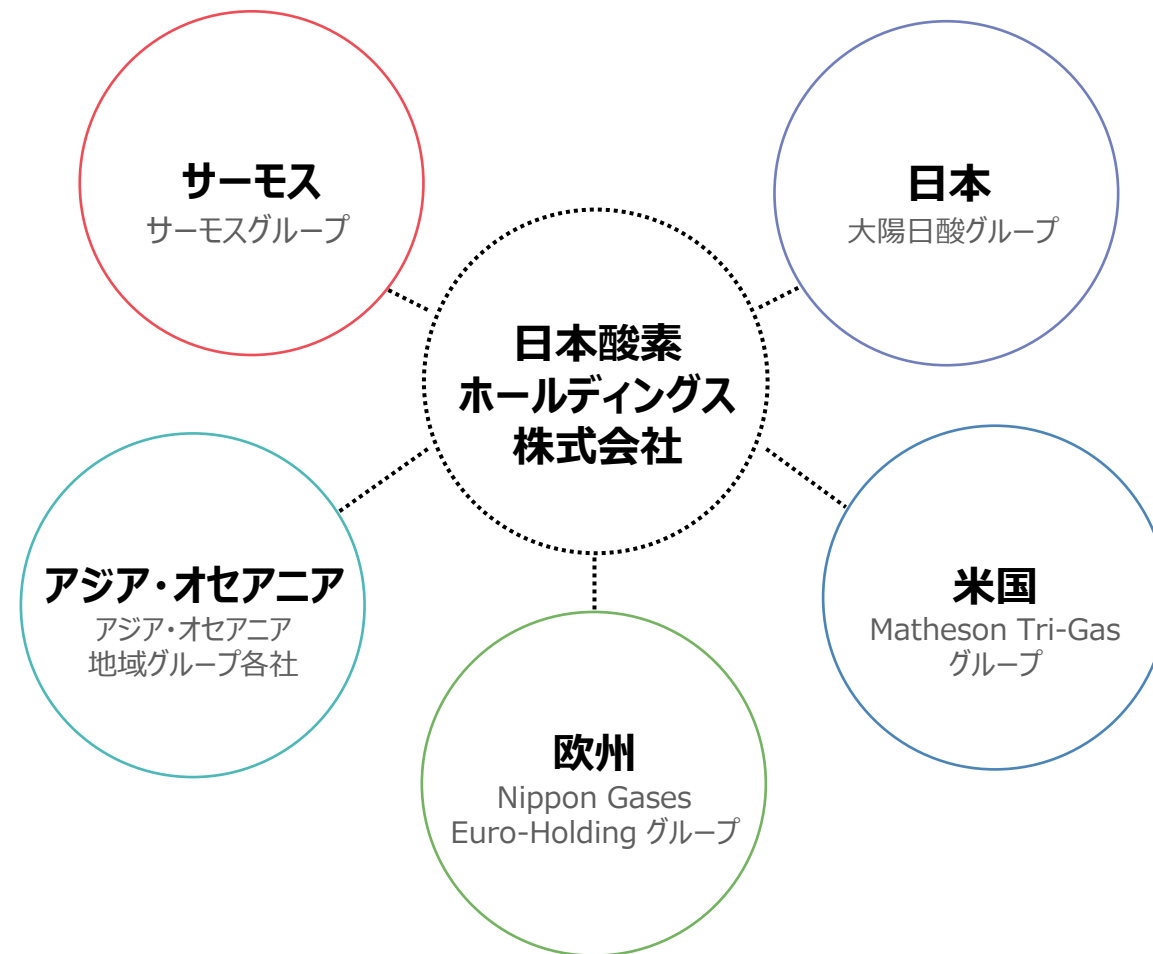
(国内 6,394名、海外 13,185名)

主要株主の状況

三菱ケミカルグループ株式会社 50.6%

(2023年3月31日現在)

2020年10月から持株会社体制へ



NIPPON SANSO HOLDINGS

企業理念

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology

The Gas Professionals

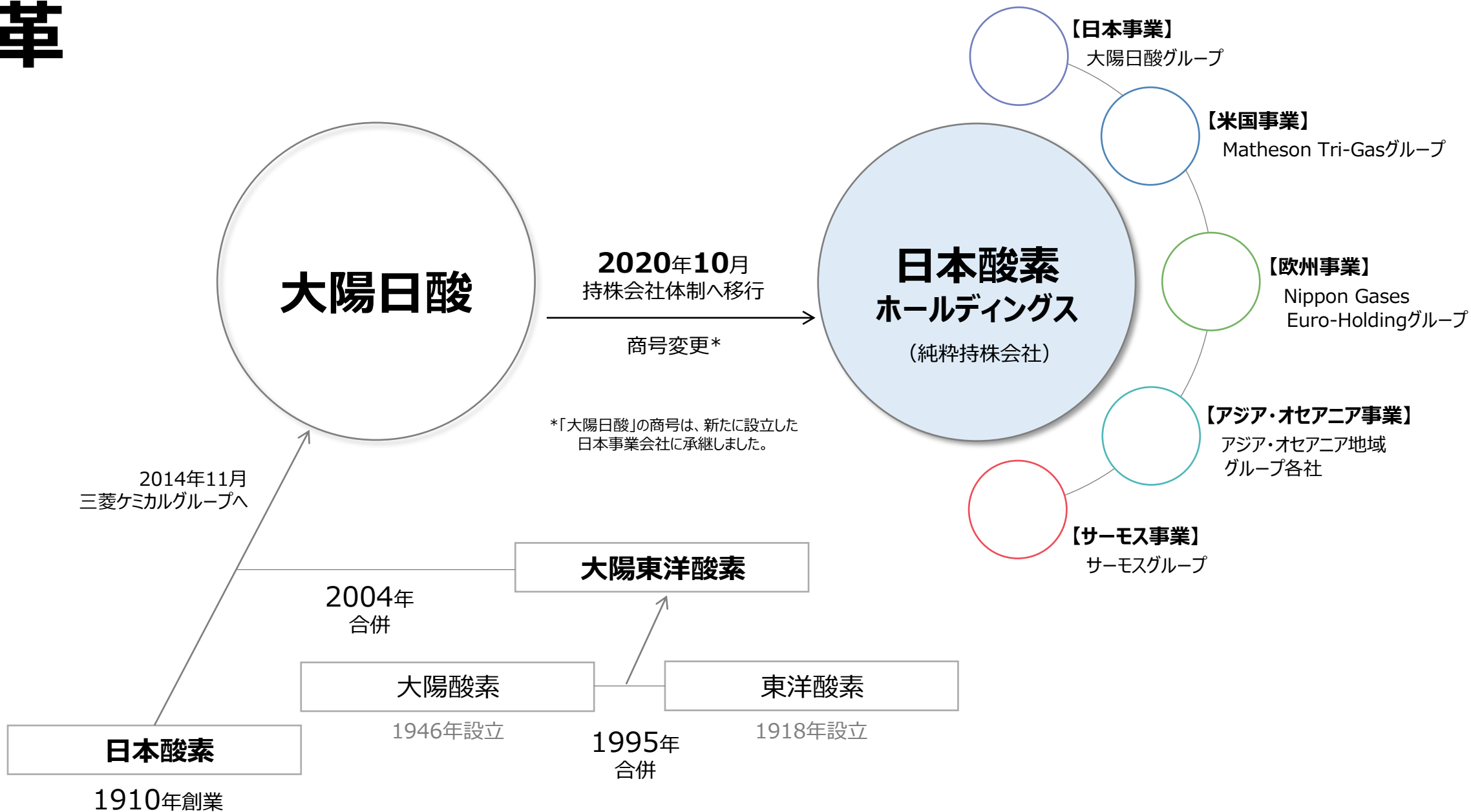
グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions
that increase industrial productivity,
enhance human well-being and
contribute to a more sustainable future.



沿革



主要な事業

産業ガス事業



構成比*

79%

エレクトロニクス事業



構成比*

18%

サーモス事業

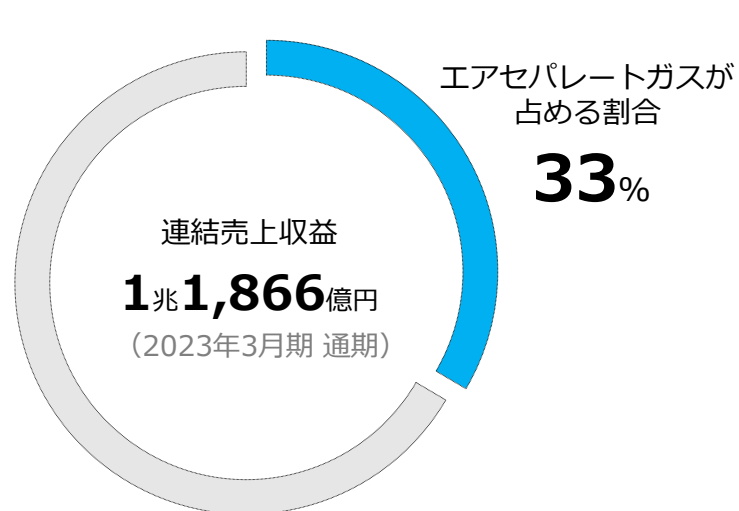


構成比*

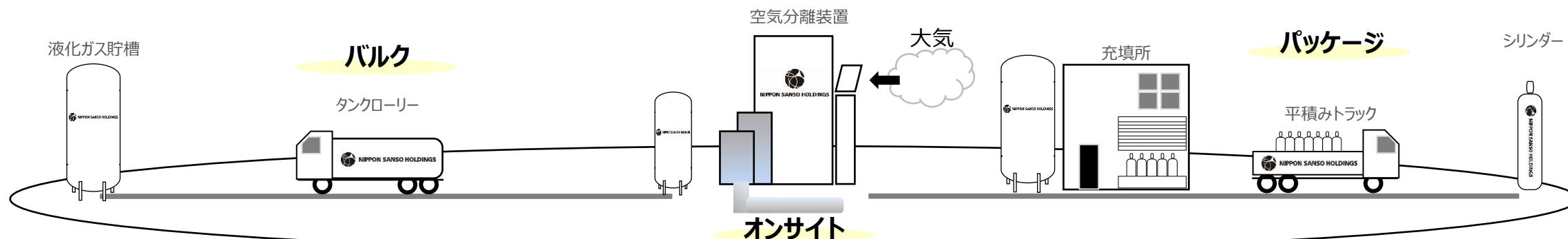
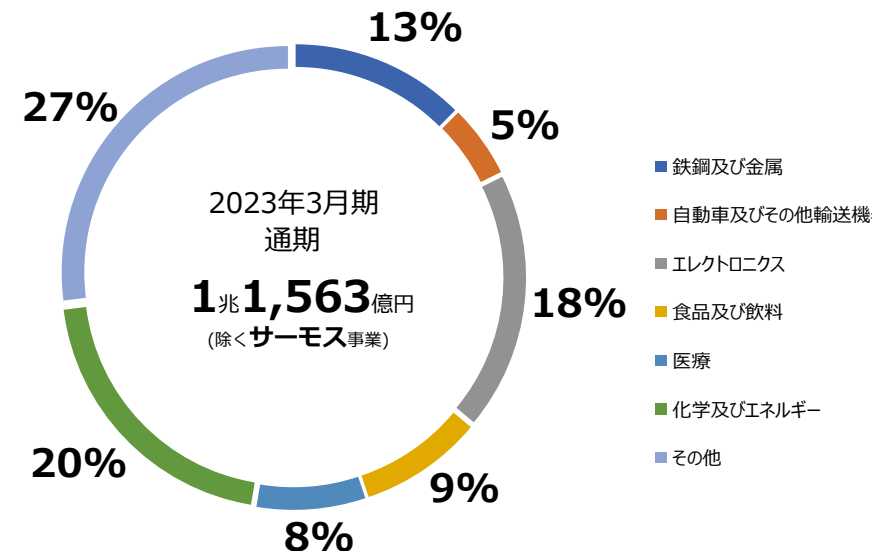
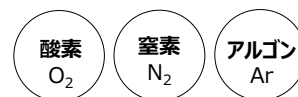
3%

* 構成比：2023年3月期における事業別売上収益構成比を表示

産業ガスの供給モデル



代表的な製品ガス
エアセパレートガス*



* エアセパレートガス：大気から分離して製造する酸素、窒素、アルゴンの各種ガスの総称

産業ガスの貢献分野

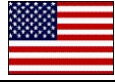
鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等のあらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、日本の産業界の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。



産業ガス市場シェア

グローバル

市場規模: 約11兆円
(2023年3月末時点の米ドル為替レートをもとに当社推定)

1位		リンデ Linde plc*
2位		エア・リキード Air Liquide S.A.
3位		エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ Air Products and Chemicals, Inc.
4位		日本酸素ホールディングス Nippon Sanso Holdings Corporation
5位		メッサーグループ Messer Group GmbH

*Linde plcは、2018年10月に 独Linde AGと米Praxair Inc. が統合して発足しました。
(データ出所)「Global Overview Gas Report 2021」(gasworld社発行)

日本

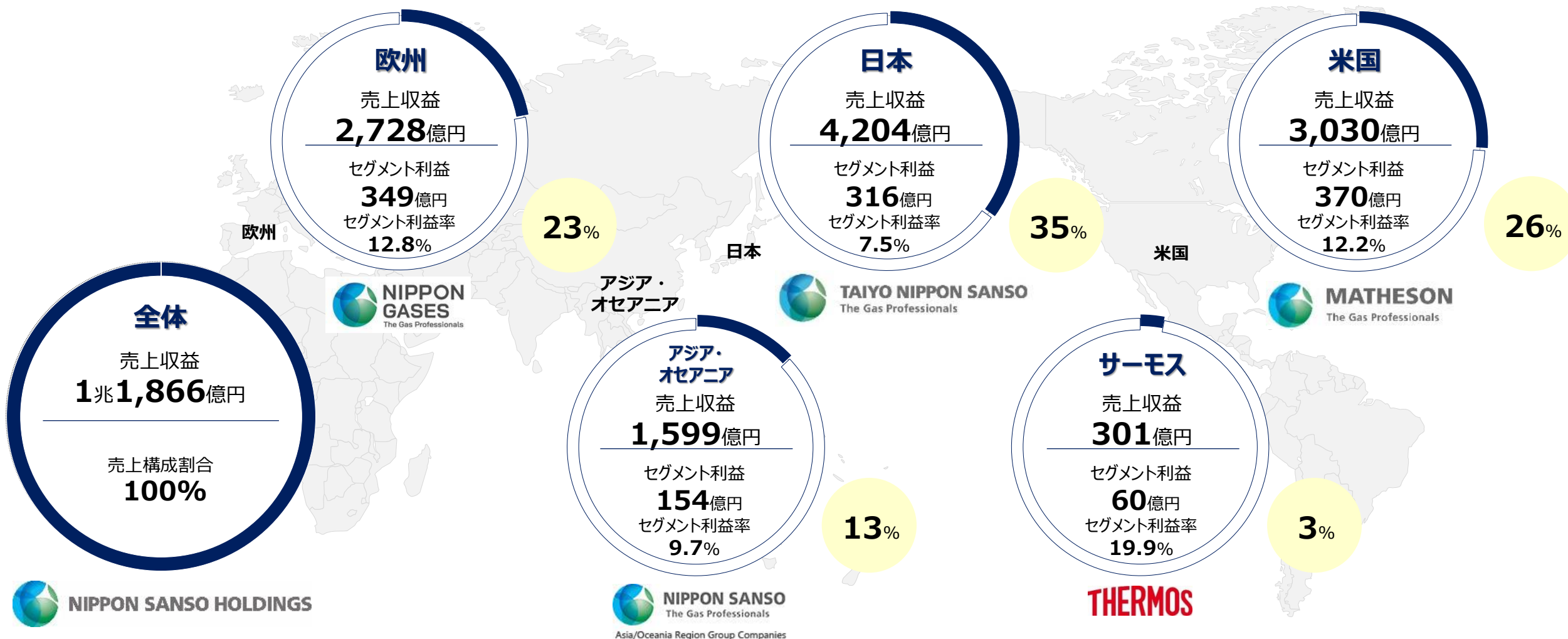
1位		大陽日酸株式会社 (日本事業会社) (日本酸素ホールディングスグループ)
2位		エア・ウォーター株式会社
3位		日本エア・リキード合同会社 (Air Liquide Japan G.K.)
		岩谷産業株式会社

(データ出所)「ウェルディングMART2022」(新報株式会社発行)

事業展開

*各セグメントの数値は2023年3月期通期のものです。

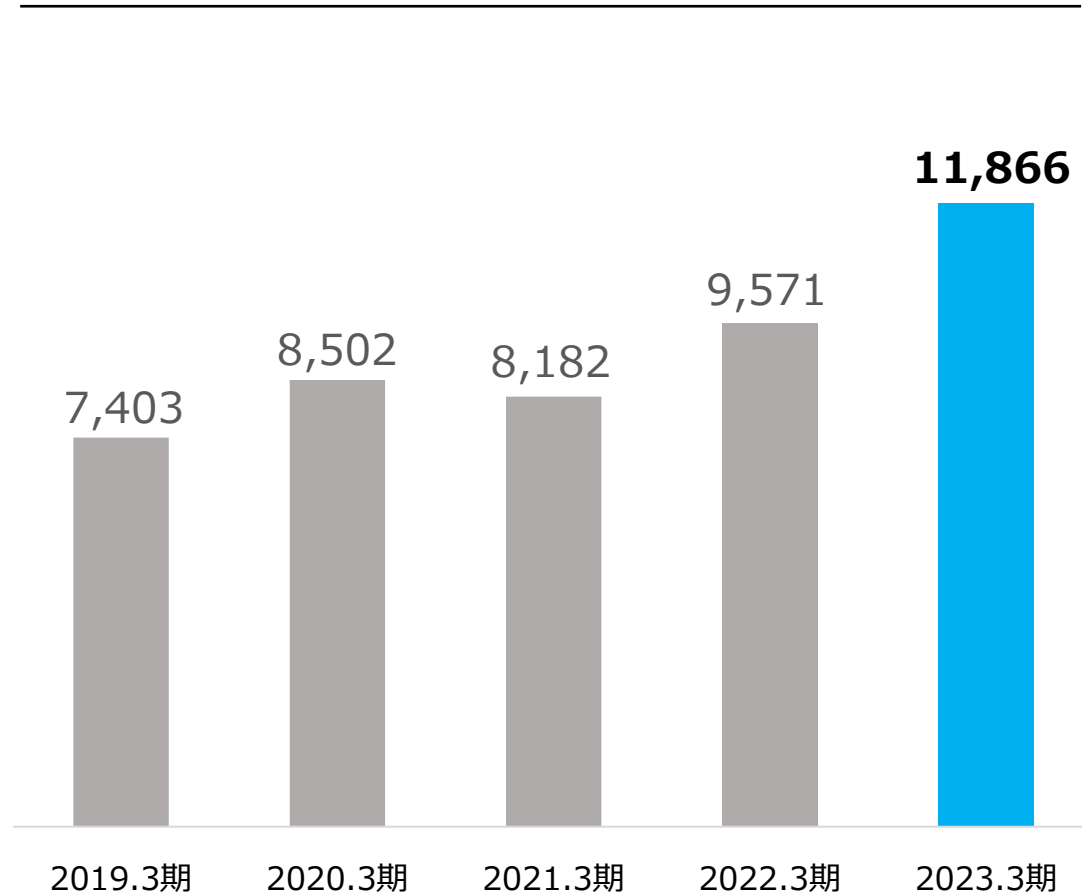
*黄色円グラフ中の数値（%）は各セグメントの売上構成割合です。



業績推移

売上収益

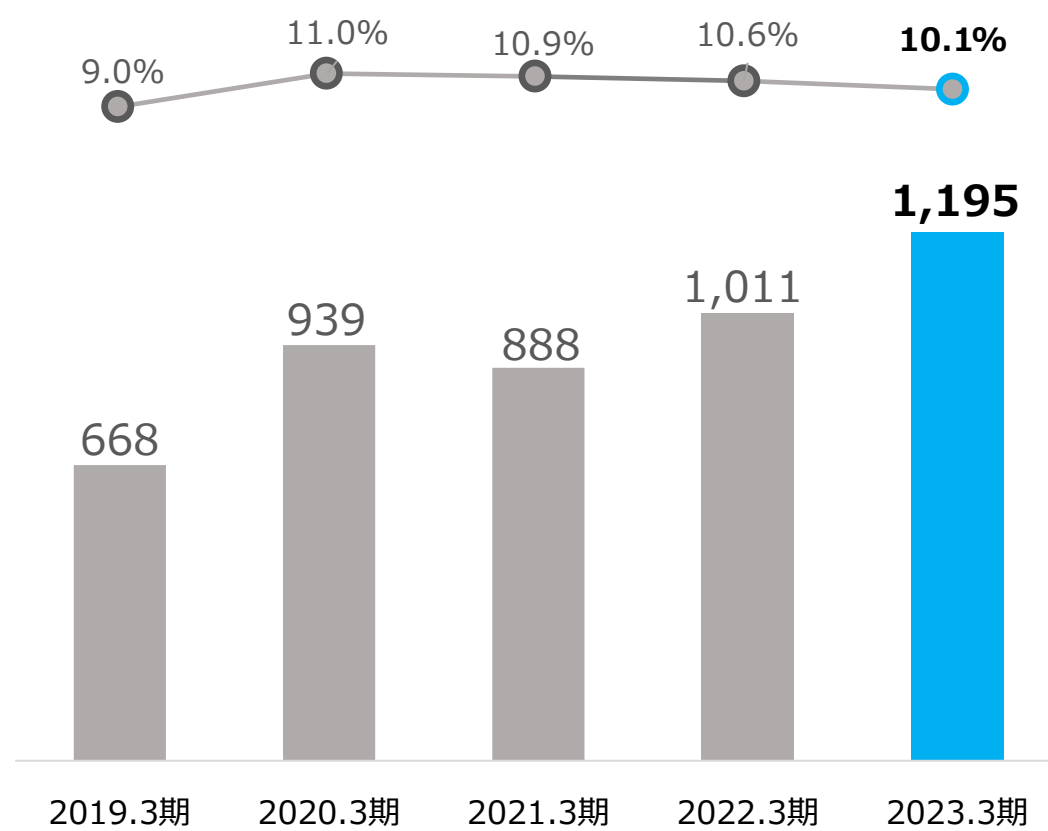
(億円)



営業利益 (IFRS)

(億円)

営業利益率



通期業績概要

	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
(単位：十億円)				
売上収益	957.1	1,186.6	+229.5	+24.0%
コア営業利益	102.7	123.1	+20.4	+19.9%
コア営業利益率	10.7%	10.4%		
非経常項目	-1.5	-3.5	-2.0	
営業利益（IFRS）	101.1	119.5	+18.4	+18.1%
営業利益率	10.6%	10.1%		
EBITDAマージン	20.4%	19.3%		
金融損益	-9.5	-14.0	-4.5	
税引前利益	91.6	105.5	+13.9	+15.2%
法人所得税	24.9	29.5	+4.6	
当期利益	66.6	75.9	+9.3	+14.0%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	64.1	73.0	+8.9	+14.0%
当期利益率	6.7%	6.2%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.5	2.8	+0.3	
基本的1株当たり当期利益（EPS）（円）	148.13	168.85	+20.72	
為替レート（円）	USD（米ドル）	113.04	136.00	
(期中平均レート)	EUR（ユーロ）	131.11	141.62	
	AUD（豪ドル）	83.33	92.67	

※2023年3月期（通期）における為替換算による影響額合計：売上収益 +796億円 コア営業利益 +99億円

通期業績予想

	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期予想	前期比	
		(2023年5月11日発表)	増減額	増減率
(単位：十億円)				
売上収益	1,186.6	1,160.0	-26.6	-2.2%
コア営業利益	123.1	127.5	+4.4	+3.6%
コア営業利益率	10.4%	11.0%		
非経常項目	-3.5	-	+3.5	
営業利益 (IFRS)	119.5	127.5	+8.0	+6.7%
営業利益率	10.1%	11.0%		
EBITDAマージン	19.3%	20.2%		
金融損益	-14.0	-25.5	-11.5	
税引前利益	105.5	102.0	-3.5	-3.3%
法人所得税	29.5	28.5	-1.0	
当期利益	75.9	73.5	-2.4	-3.2%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	73.0	70.5	-2.5	-3.5%
当期利益率	6.2%	6.1%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.8	3.0	+0.2	
基本的1株当たり当期利益(EPS) (円)	168.85	162.87	-5.98	
ROCE after Tax (税引き後 使用資本利益率)	5.4%	5.4%		
調整後ネットD/レシオ	0.81	0.85		
為替レート (円)	USD (米ドル)	136.00	130.00	
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	141.62	140.00	
	AUD (豪ドル)	92.67	93.50	

2024年3月期は、前期比で、非連結化及び為替による影響を除いた売上収益成長率は+2%、コア営業利益成長率は+5%を見込む

※2024年3月期（通期）における為替換算による影響額合計見込み：売上収益 ▲183億円 コア営業利益 ▲22億円



Enabling the Future

NS Vision 2026

日本酸素ホールディングス株式会社

中期経営計画主要戦略 (2023年3月期-2026年3月期)

中期経営計画説明資料

➡ 詳しくはこちら



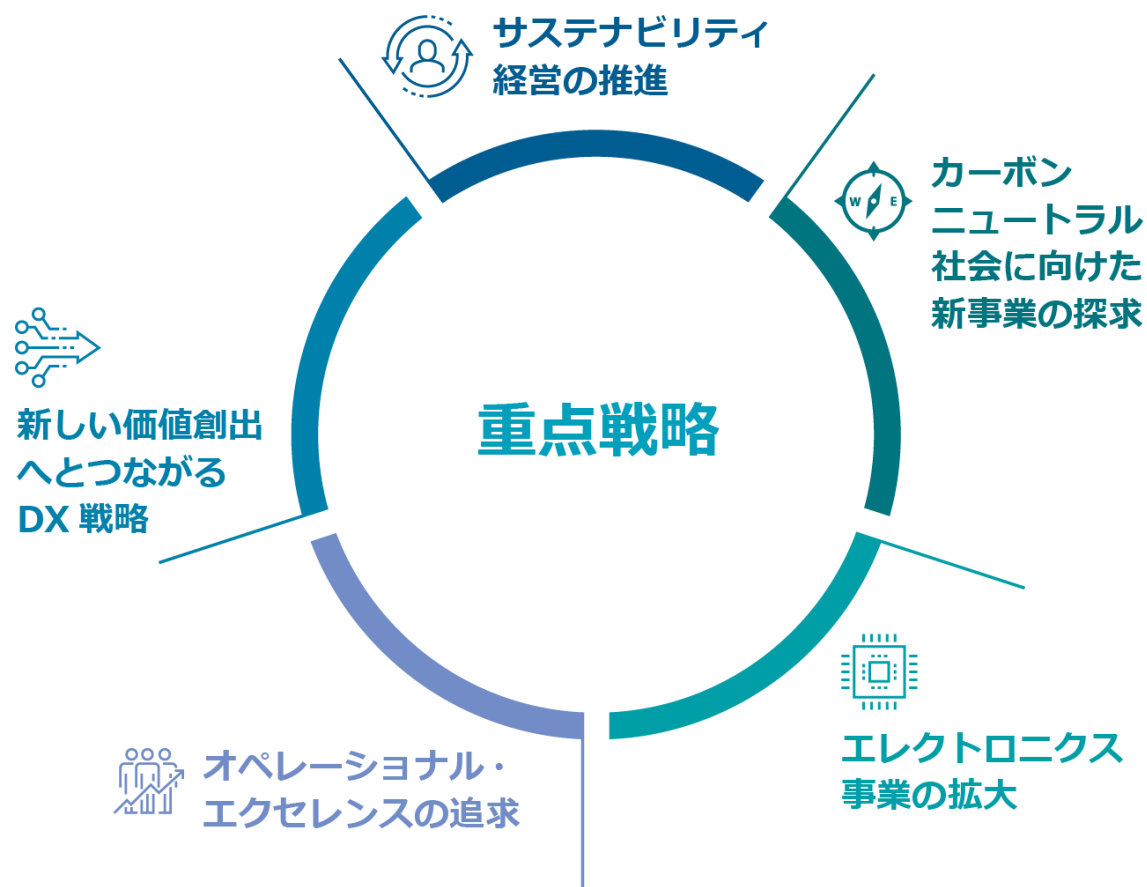
2. 中期経営計画

NS Vision 2026 | Enabling the Future



5つの重点戦略

2022年4月より、2026年3月期を最終年度とする
4ヶ年の中期経営計画『NS Vision 2026～Enabling the Future～』を策定しました。



グループ目標KPI

財務 KPI FYE2026

売上収益

9,750 億 ~ 1 兆円*

コア営業利益

1,250~1,350 億円*

EBITDAマージン

グループ :
≥24%

日本、米国、欧州、
アジア・オセアニア、サモス :
≥17~33%

調整後ネットD/Eレシオ

≤0.7

ROCE after Tax

≥6%

環境

GHG排出量の削減率 (基準年度 : FYE2019)

18% :FYE2026 32% :FYE2031

環境貢献製商品によるGHG削減量

環境貢献製商品による
GHG削減貢献量

>

GHG 排出量
FYE2026

保安

休業災害度数率

≤1.6
FYE2026

コンプライアンス

コンプライアンス研修受講率

100%
FYE2026

人事

女性従業員比率

≥22% :FYE2026
25% :FYE2031

女性管理職比率

≥18% :FYE2026
22% :FYE2031

非財務 KPI

*1 グローバル経済の不確実性を踏まえ、売上収益およびコア営業利益は範囲表記としています。

*2 当中期経営計画策定時の想定為替レートは、米ドル115円、ユーロ125円です。



資本配分の考え方

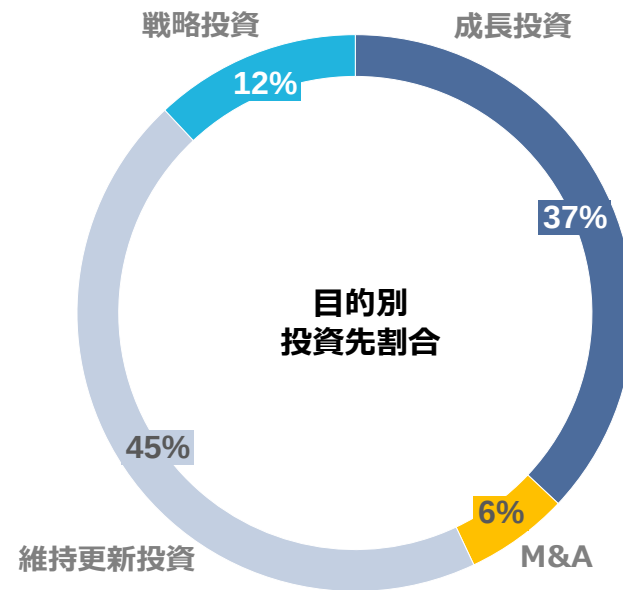
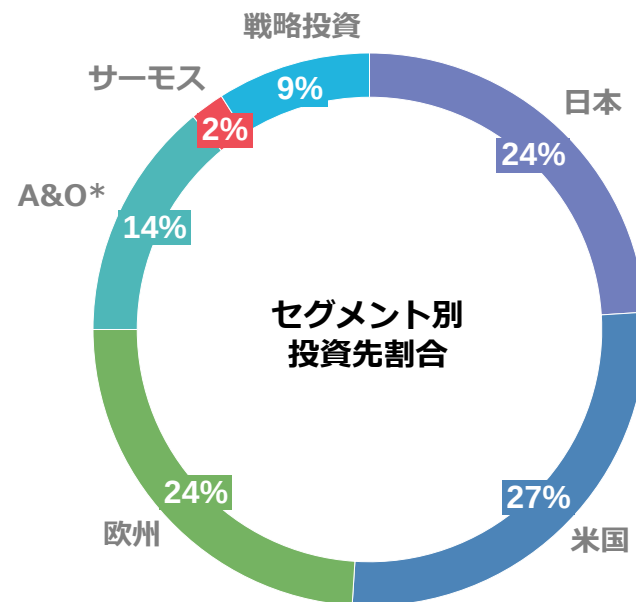
IN

OUT



➤ 戦略投資対象

- **CN:** カーボンニュートラルプロジェクト
- **DX:** デジタルトランスフォーメーション関連



(ご参考) セグメント別 投資対売上収益割合

日本: 7.4%, 米国: 10.5%, 欧州: 12.9%, *アジア・オセアニア: 11.1%, サーモス: 6.9%





日本酸素記念館（山梨県北杜市）

3. 事業ピックアップ

安定同位体 | Stable Isotope (SI)

1986年 安定同位体事業を創業

2004年 独自の極低温蒸留技術で
Water- ^{18}O の生産を開始

世界初となる酸素蒸留プラントを実用化

2015年 SIイノベーションセンター
(東京都多摩市) を開設

2019年 日本国内で初めて
Water- ^{17}O の製造に成功

**大陽日酸 (日本事業会社) は、
日本最大の安定同位体メーカーです**



Water- ^{18}O の充填作業の様子 (SIイノベーションセンター)

PET診断薬の原料 Water- ^{18}O



Water- ^{18}O の製品容器

PET診断

Positron Emission Tomography
陽電子放射断層撮影診断

画像診断の一種。
放射性診断薬を体内に投与して、
特殊なカメラで画像化し、分析・診断。
診断薬 ^{18}F -FDG*を用いたがん検査が一般的。

診断対象

- ・がん
- ・アルツハイマー病
- ・心筋梗塞

診断薬 ^{18}F -FDG* 製造方法

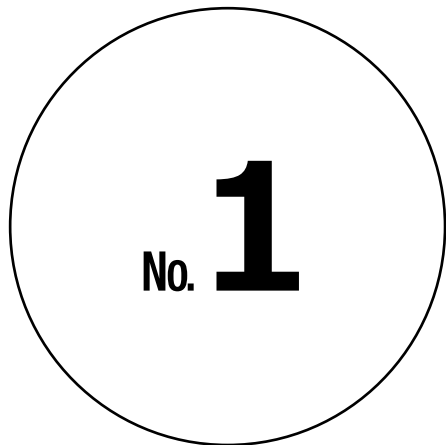
- ① 酸素同位体 ^{18}O に水素 H_2 を添加して
製造された**Water- ^{18}O** （原料）を
サイクロトロン装置で核反応させて、
 ^{18}F （フッ素18：放射性同位体）を生成
- ② その後、合成装置で ^{18}F -FDGを製造
→この診断薬を体内に投与

* 診断薬 ^{18}F -FDG：フルオロデオキシグルコースというブドウ糖に良く似た薬で、ブドウ糖代謝の指標として用いられます。

Water-¹⁸O 市場シェア

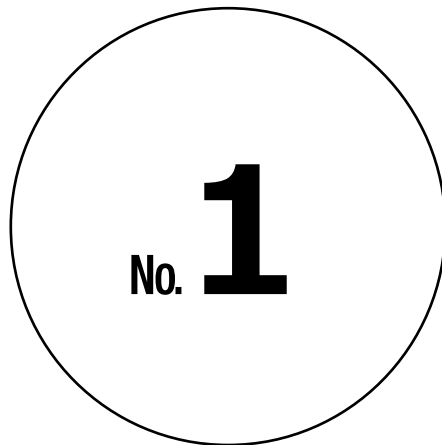
グローバル

市場規模: 約**60**億円
(当社推定)



(出所：生産量及び出荷数量ベースで、当社にて推定)

日本



世界最大の酸素同位体メーカー：大陽日酸

年産**600**kg以上の生産能力で、
グローバルに**40**超の国と地域に向けて出荷



1号 製造プラント
(千葉県五井市)



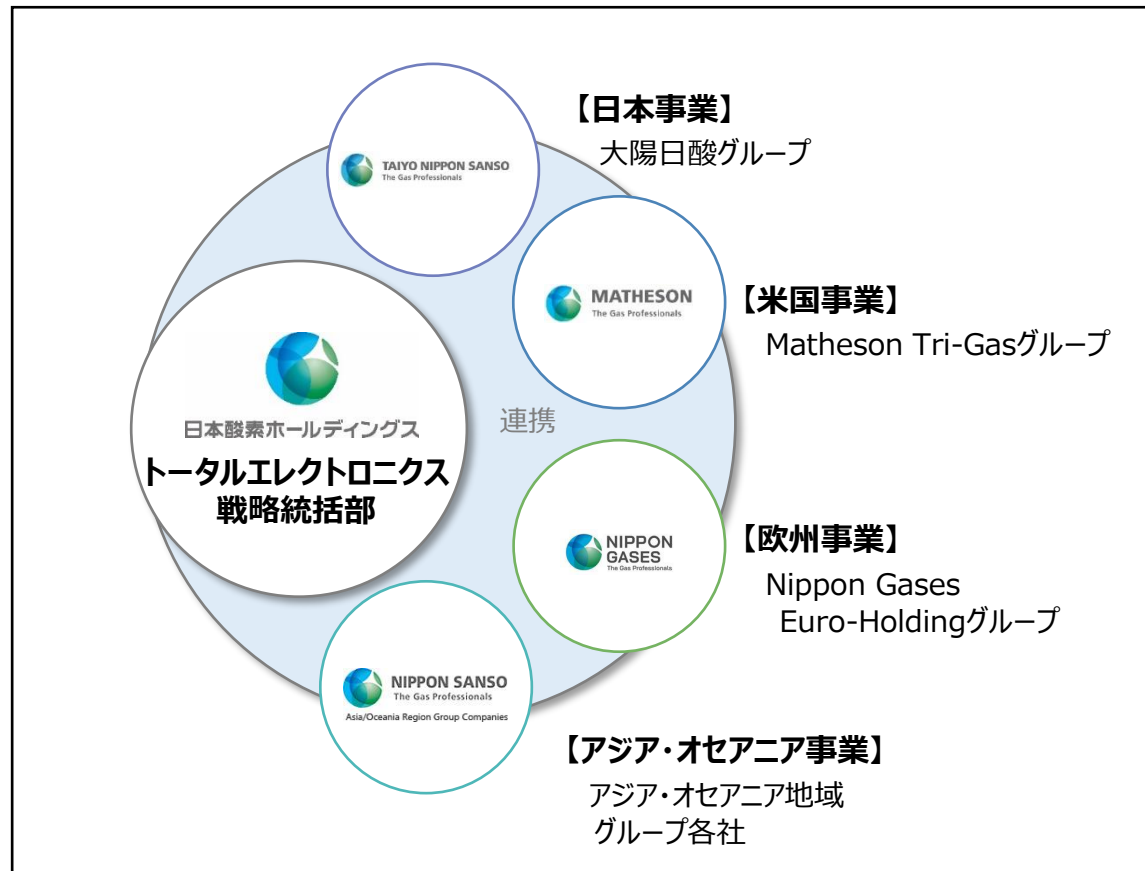
2号 製造プラント
(千葉県袖ケ浦市)



3号 製造プラント
(山口県周南市)

トータルエレクトロニクス戦略

グローバル4極それぞれの地域で、
供給インフラを有し、幅広いサービスで
グローバルに展開するお客さまをサポートしています。



半導体産業のお客さま向けに総合的な提案で課題を解決



次世代ガス供給システム

IGSS

Intelligent Gas Supplying System

工場のスマート化、作業省力化のニーズに、デジタル技術と当社の知見・技術・経験を組み合わせで開発



Rapidus向けガスサプライヤーに選定



次世代半導体の量産化を目指す本プロジェクトに参加することで、
日本及びグローバルの半導体産業の発展に貢献

大陽日酸は、**Rapidus**が北海道千歳市に新設する
次世代半導体工場 IIM (Innovative Integration for Manufacturing)
試作ライン向けガス関連設備工事の設計施工者
及び バルクガス^{*1}のサプライヤーに選定されました。

2024年11月 同社構内に「千歳ガスセンター」を開設予定

2025年前半 バルクガス^{*1}を供給開始予定

➡ 詳しくはこちら



Rapidusは、日本の主要企業8社^{*2}により出資・設立され、次世代半導体の量産化を目指し、
自動運転やAIなど、次世代の産業に欠かせない2nm（ナノメートル）の最先端半導体の量産基盤
構築を目指しています。

（出所：同社ホームページより当社にて編集）

^{*1} バルクガス：窒素ガス、酸素ガス、アルゴンガス、炭酸ガス、ヘリウムガス、水素ガスの供給を予定しています。

^{*2} 日本の主要企業8社：キオクシア(株)、ソニーグループ(株)、ソフトバンク(株)、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)、日本電気(株)、日本電信電話(株)、(株)三菱UFJ銀行



製品コンセプト

THERMOS

コンセプトは「サーモスマジック」

魔法びんのパイオニアとして守り育ててきた断熱技術と、ユニークな生活快適発想を柔軟に組みあわせ、
もっとおいしく、パッと便利で、ほっとこちよい、夢ある暮らしを創造します。

そのためにもおいしさの違い、便利さの違い、発想の違いをお客様が「なるほど！」と実感できるオンリーワン商品であることにこだわり続けます。
そして、人々の健康な暮らしに貢献する企業として、環境や社会と誠実に関わりながら、もっと、ずっと愛されるサーモスを目指します。



「魔法びん」のパイオニア | 世界最大の魔法びんブランド

サーモスは、断熱技術を応用しながら時代のニーズを反映したさまざまな製品を届け、人々の暮らしに便利さや快適さを届けてきました。

電気やガスなどのエネルギーを使用せず保温・保冷を実現する断熱技術や、使い捨てにすることなく繰り返し使えるアイテムは、世界中が力を合わせて取り組んでいるサステナビリティの精神にも繋がっています。

1904年 | ブランドの原点
世界で初めてガラス製魔法びんを製品化

1978年 | 日本発の技術革新
日本の技術力で世界初の「高真空ステンレス製魔法びん」を開発



真空断熱技術を「魔法びん」へ | 製品のイノベーション

産業ガス事業で培ったコア技術

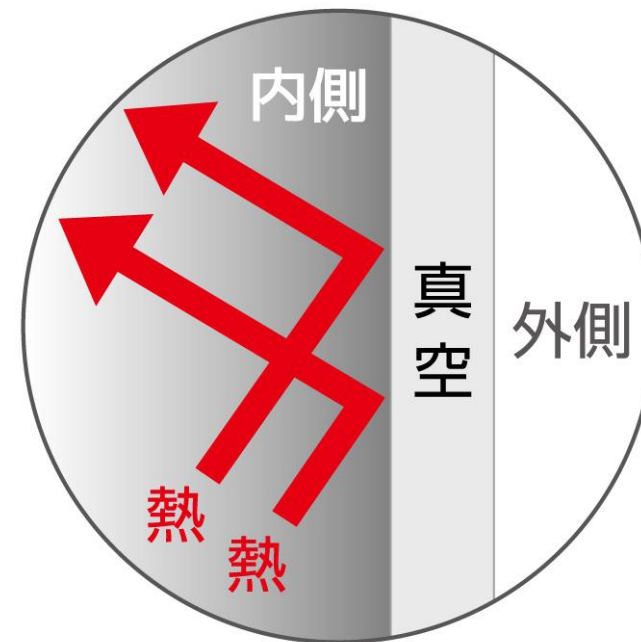
- 1 真空断熱技術
- 2 高度な金属加工技術
- 3 徹底した品質・安全管理



当社が世界初の高真空ステンレス製ボトル「アクト・ステンレスポット」を発売



おいしい温度をキープ



冷めない情熱 | 新たな製品の開発

定番となっている製品のほかにも、チャレンジな姿勢で、さまざまな製品を開発・提案



シャトルチューブ

HJA-500/1000

1989年



真空断熱豆腐メーカー
豆腐屋さん

JLT-400

1993年



真空断熱
パスタクッカー

KJA-2000

2006年



ごはんが炊ける
弁当箱

JBS-360

2017年



ヌードルコンテナ

JEC-1000

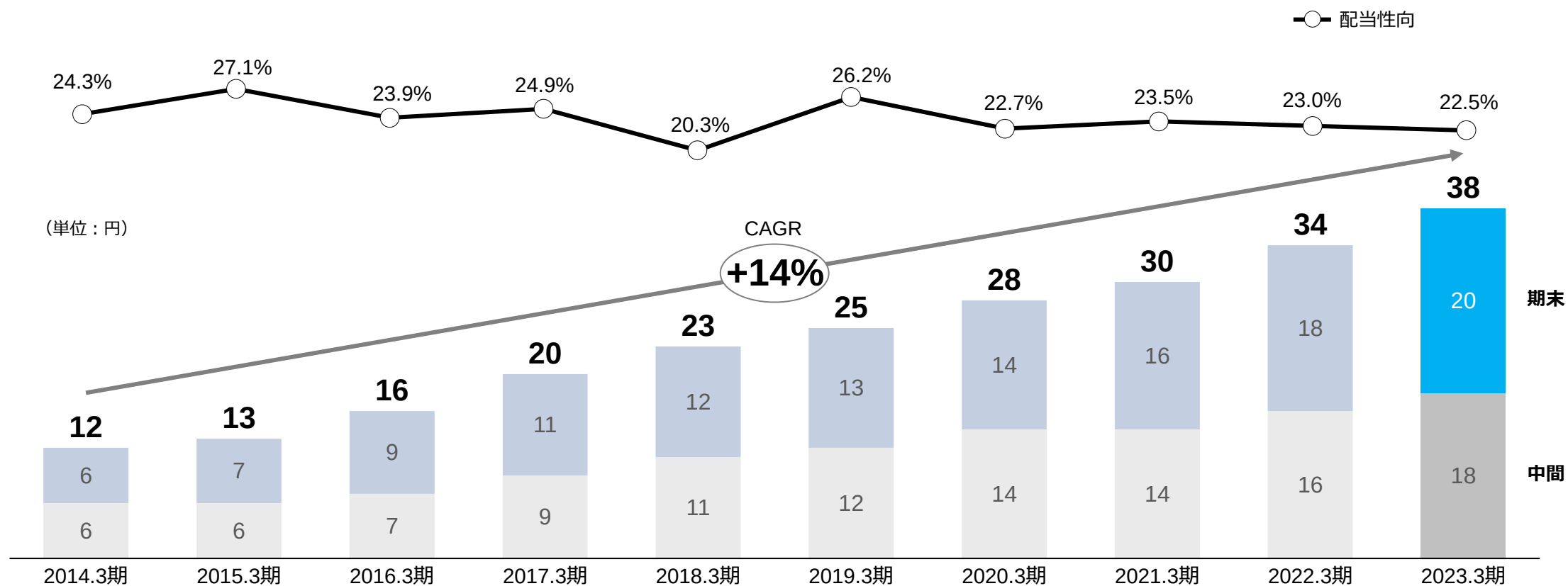
2023年

4. 株主還元



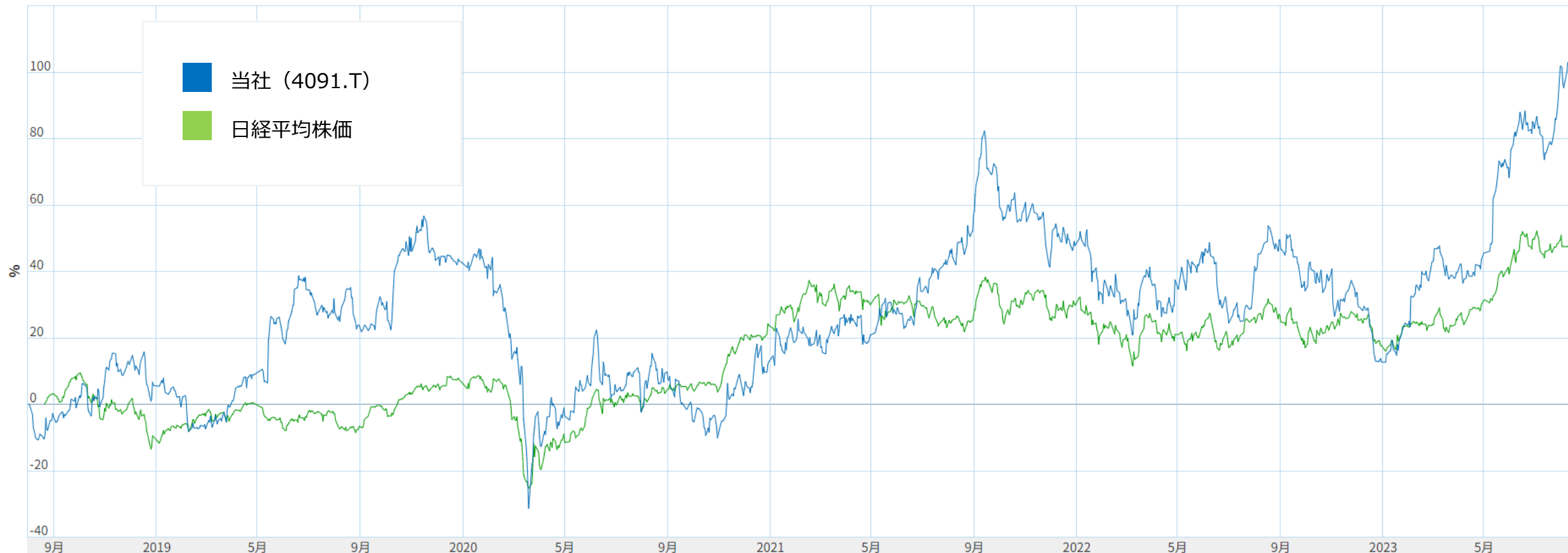
株主還元

事業を通じて創出したキャッシュフローを活かし、安定的かつ堅実な配当政策を実施します。



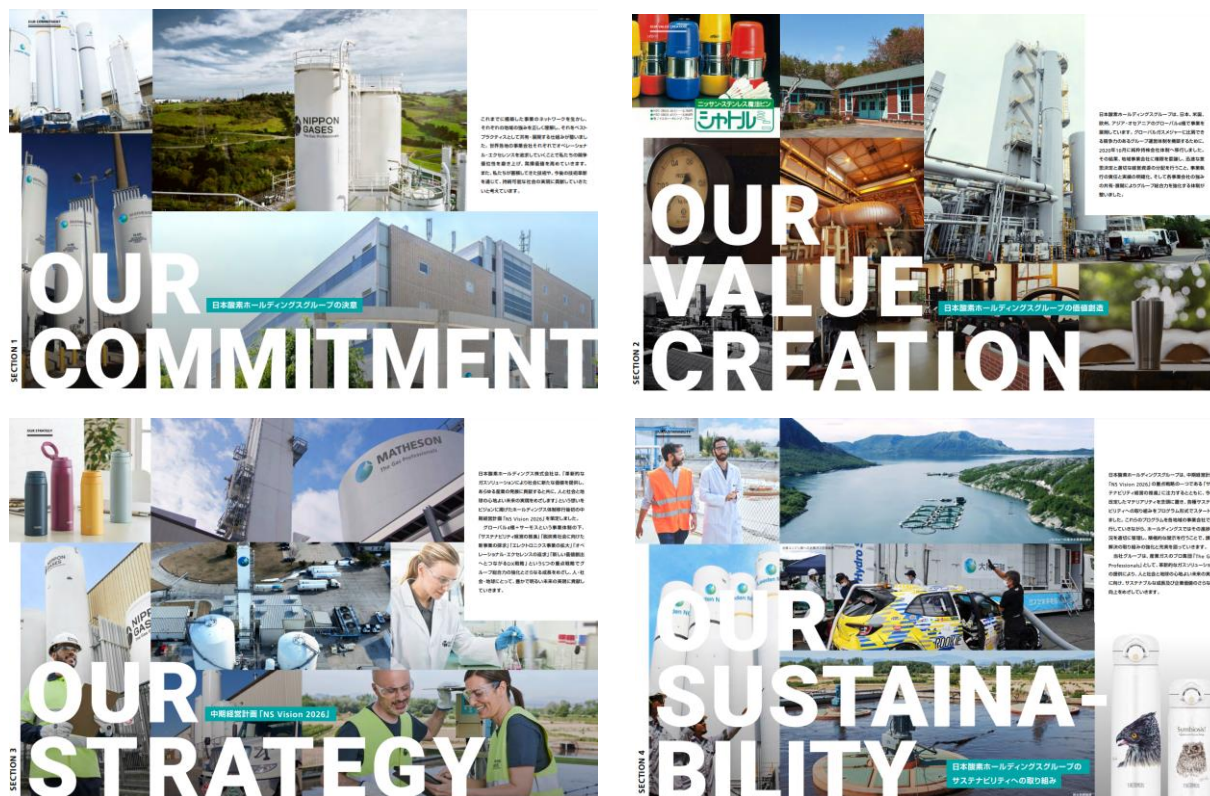
株価推移

過去5年間の株価推移を2018年8月1日を基準にした増減率で表示しています。

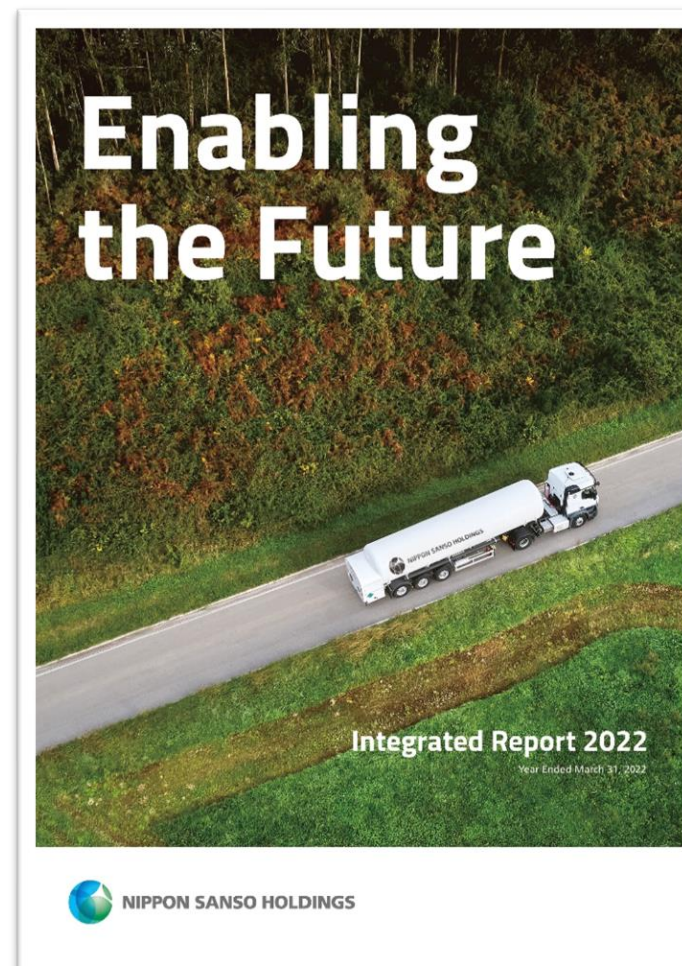


統合報告書のご案内

当社では、2017年から発行し、当社ウェブサイト上に公開しています。
2023年版は、9月下旬にリリース予定です。



日本酸素ホールディングス 統合報告書2022（表紙）



👉 詳しくはこちら



結びのことは

The Gas Professionals



NIPPON SANSO HOLDINGS

Appendix



為替レートおよび為替感応度

・ 為替レートを適用した場合の売上収益並びに営業利益、及び為替変動による影響額の表示について

為替変動による影響額は、対象期間（当期及び前期）に当期の期中平均レートを適用して算出しております。これらの情報は、国際会計基準（IFRS）に準拠しているものではありませんが、これらの開示は、投資家の皆さまに日本酸素HDグループの事業概況をご理解いただくための有益な分析情報と考えています。

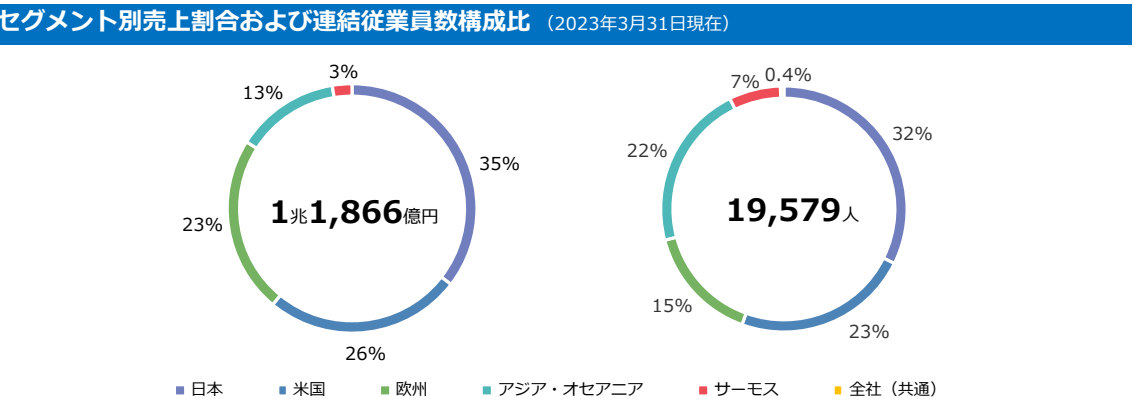
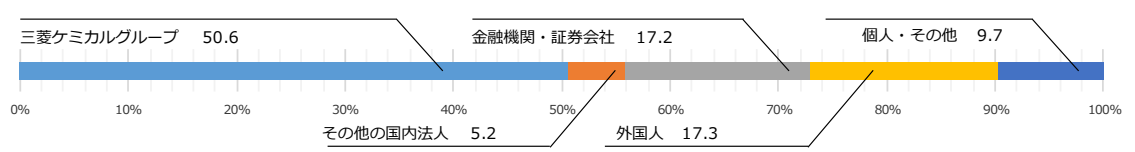
＜為替レート＞		期中平均レート										（ご参考）為替感応度 目安 通貨単位別 1 円当たりの円安影響額 （通期基準）			
		2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期					
		第1四半期累計 （4-6月）	第2四半期累計 （4-9月）	第3四半期累計 （4-12月）	通期累計 （4-3月）	第1四半期累計 （4-6月）	第2四半期累計 （4-9月）	第3四半期累計 （4-12月）	通期累計 （4-3月）	通期前提 （4-3月） （2023年5月11日発表）	単位：十億円 通貨単位	売上収益	コア営業利益		
USD	米ドル	109.76	110.10	111.45	113.04	131.25	135.30	136.85	136.00	130.00	USD 米ドル	+2.2	+0.28		
EUR	ユーロ	132.44	131.16	130.96	131.11	138.75	139.14	140.83	141.62	140.00	EUR ユーロ	+1.9	+0.25		
SGD	シンガポールドル	82.41	82.01	82.77	83.83	94.97	97.12	98.61	99.05	97.10					
AUD	豪ドル	84.15	82.33	82.69	83.33	92.52	93.51	93.16	92.67	93.50					
CNY	中国元	17.06	17.07	17.35	17.65	19.71	19.91	19.81	19.71	19.90					

・ 業績全般、及びセグメント業績の表示について

セグメント間については相殺消去後の数値であり、表示している金額には消費税等は含まれていません。

会社概要	
(2023年3月31日現在)	
商号	日本酸素ホールディングス株式会社
(英文名称)	Nippon Sanso Holdings Corporation
設立	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
電話番号	03-5788-8500 (代表)
代表者	代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦
資本金	373億44百万円

株式情報	
(2023年3月31日現在)	
発行済み株式総数	433,092,837 株
株主数	14,743 人
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	4091.T
株式所有者別割合 (%)	



企業理念

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology.

The Gas Professionals

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas
solutions that increase industrial productivity,
enhance human well-being and
contribute to a more sustainable future.

主要事業

産業ガス事業

エレクトロニクス事業

サーモス事業

2024年3月期 業績予想 (IFRS)			
売上収益	1兆1,600 億円	親会社の所有者に帰属する当期利益	705 億円
営業利益	1,275 億円	EPS (1株あたり当期利益)	162.87 円

概要

計画名称	NS Vision 2026
スローガン	Enabling the Future
設定期間	2022年4月から2026年3月までの4年間
発表日	2022年5月11日

財務目標 (当計画 最終事業年度：2026年3月期)

売上収益	9,750-10,000 億円
コア営業利益	1,250-1,350 億円
EBITDAマージン	グループ： ≥24 % 日本, 米国, 欧州, アジア・オセアニア, サーマス： ≥17-33%
調整後ネットD/Eレシオ	≤0.7 倍
ROCE after Tax	≥6 %
(備考) 為替換算レート (想定)：USD ¥115 EUR ¥125	

非財務目標

<環境>		
GHG排出量の削減率	2026年3月期：	18 %
(基準年度：2019年3月期)	2031年3月期：	32 %
環境貢献製商品によるGHG削減量	2026年3月期：環境貢献製商品によるGHG削減貢献量 > 当社グループのGHG排出量	

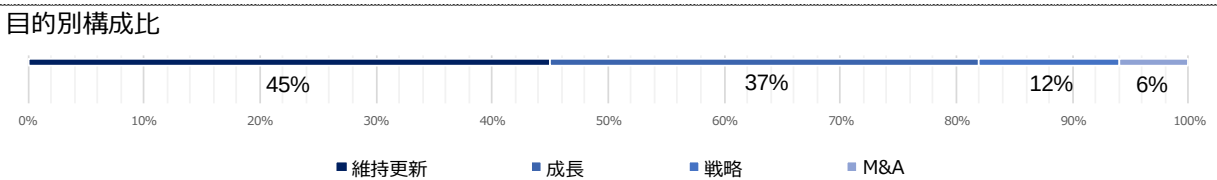
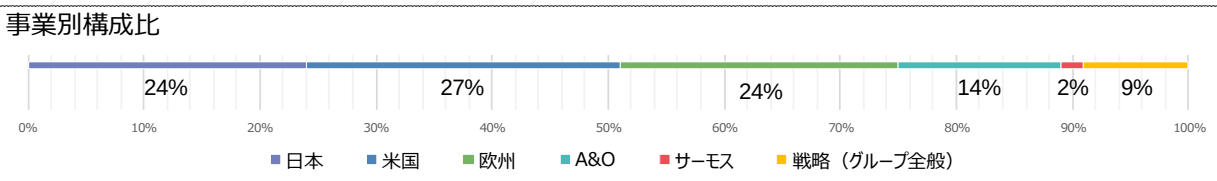
<保安>		
休業災害度数率	2026年3月期：	≤1.6

<コンプライアンス>		
コンプライアンス研修受講率	2026年3月期：	100 %

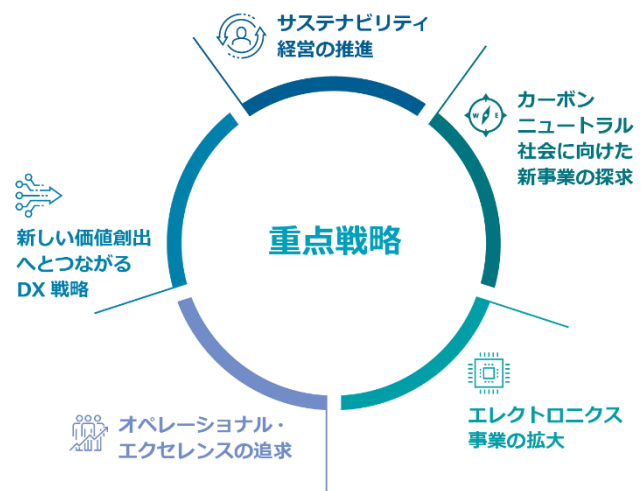
<人事>		
女性従業員比率	2026年3月期：	≥22 %
	2031年3月期：	25 %
女性管理職比率	2026年3月期：	≥18 %
	2031年3月期：	22 %

資本配分

キャッシュイン	(4年間合計)
[営業キャッシュ・フロー]	7,300 億円
キャッシュアウト	4,330 億円
[投資全般]	

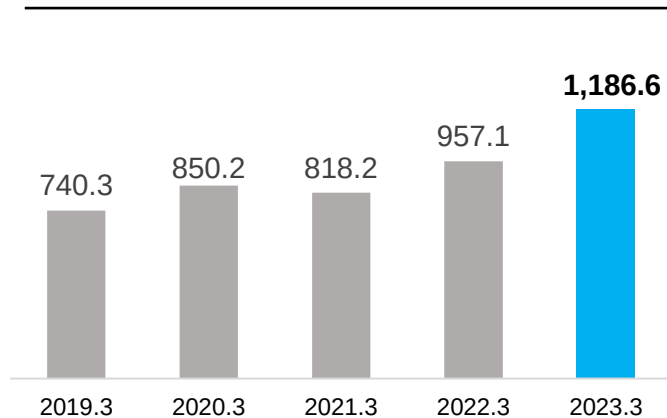


重点戦略

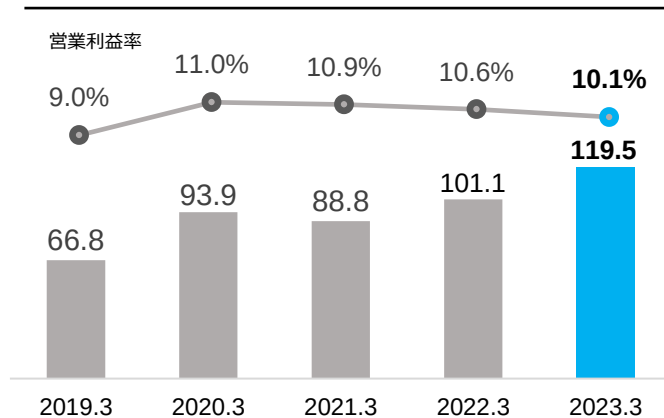


過去5か年の業績推移

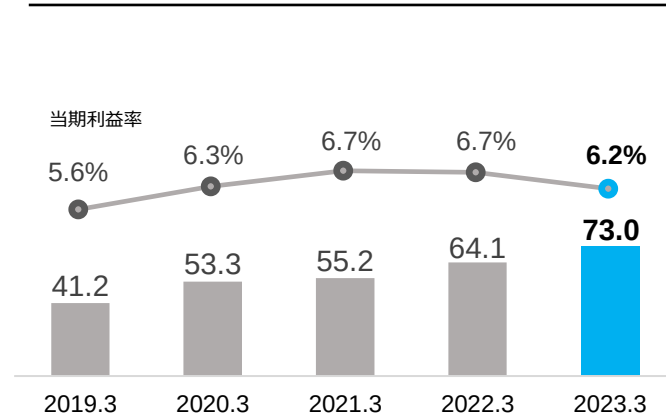
売上収益 (十億円)



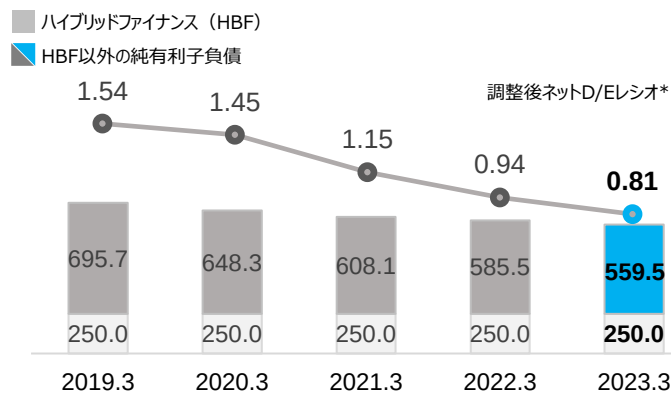
営業利益 (IFRS) (十億円)



親会社の所有者に帰属する当期利益 (十億円)

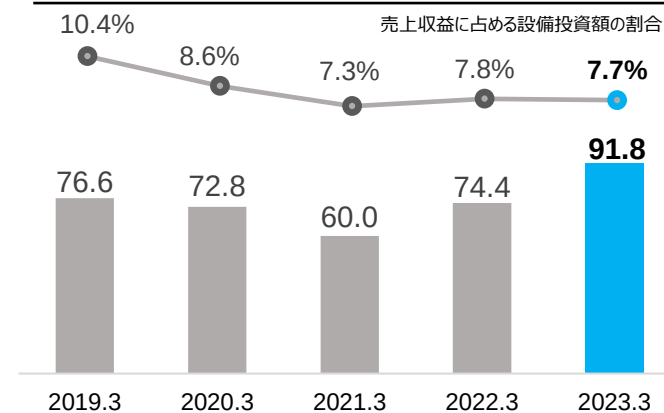


純有利子負債 (十億円)



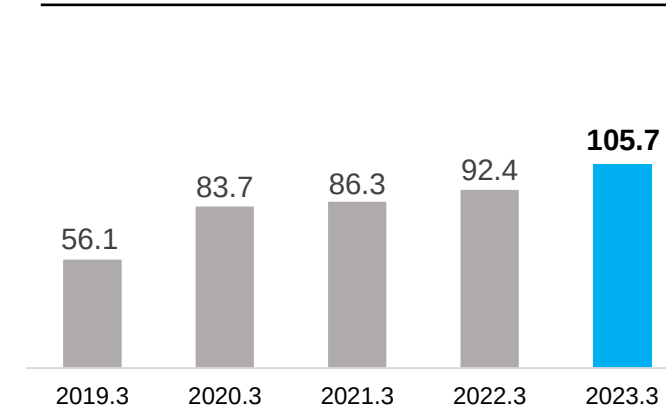
*調整後ネットD/Eレシオ：格付機関により、HBFで調達した金額の50%を「資本」として認められていますので、この部分を考慮して算出した安全性（財務健全性）を示す指標です。

設備投資額 (十億円)



*2019年3月期までは工事ベースでの計上、2020年3月期以降は資金ベースでの計上です。

減価償却額・償却費 (十億円)





THERMOS

おいしい温度。サーモス

届けてきたのは、毎日のうれしい気持ち。

真夏の午後に飲むスポーツドリンク

しんと冷える朝に飲むコーヒー

仕事でひと息ついた時に食べる、温かいお弁当。

100年以上もの間、届けてきたのは「おいしいね」のすてきな笑顔。

これからもずっと一緒に。

さらに詳しい情報は、こちらまでお問い合わせください。

投資家・株主の皆さま

IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp

今後の投資家向け開催予定イベント

2024年3月期 第2四半期決算発表 2023年10月31日（火）

www.nipponsanso-hd.co.jp

IRニュースメール配信サービスのご案内

当社ウェブサイトまたはQRコードからメールアドレスをご登録しますと、最新の適時開示等、当社IR情報について、公表と同時に自動でメール受信できます。

当社ウェブサイト「IRニュースメール配信サービス登録画面」

<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/ir/newsmail.html>

QRコード

こちらのQRコードを読み取ると、登録画面に遷移します。



日本酸素ホールディングス株式会社（証券コード：4091）

本社所在地：〒142-0062 東京都品川区小山1-3-26





NIPPON SANZO HOLDINGS

The Gas Professionals

© 2023 NIPPON SANZO Holdings Corporation All rights reserved